

1. 総評

(1) 年度初めの学校の状況 【学校の現状及び前年度の成果と課題】

○ 学校の現状

- (1) 落ち着いた環境の中で教育活動が行われている。
- (2) 道徳教育実践研究事業の成果が現れ、道徳の時間の工夫改善が進められ、規範意識が高まりつつある。
- (3) 家庭学習など生徒の自主的な学習に対する取組はまだ不十分である。

○ 前年度の成果

- (1) 基礎学力の定着のために、質問教室、補充教室、定期考査での学習時間の確保などの取組が効果を現しつつある。
- (2) 2年間の道徳教育実践研究事業の結果、道徳の時間の工夫改善を図ることができ、生徒の規範意識が向上した。
- (3) わがままゼロ運動やあいさつ運動、ボランティアによる美化活動など生徒の自主的な活動を増やすことができた。

○ 前年度の課題

- (1) 基礎・基本の定着と自主的な学習習慣の形成
家庭学習の習慣化が十分とはいえず、家庭でも学習しようとする姿勢を育てる。
- (2) 生徒の主体的な取組をさらに工夫改善し、生徒の自主性を育成する。
- (3) 教科の指導力の向上を図り、わかる授業を行う。

(2) 今年度の重点目標とそれに向けた取組の概要**重点的な取組事項－1 基礎・基本の定着と自主的な学習習慣の形成**

- ・毎日の宿題提出を義務づけ、未提出者は放課後残しても指導し提出させる。
- ・年4回の定期考査時、毎日1校時に学習時間を設定し自学自習させる。
- ・定期考査前に質問教室や補充教室を実施するとともに、夏季休業日に5日以上補習教室を実施する。
- ・開かれた学校づくり協議会の協力の下、サタデースクールを30回以上実施する。

重点的な取組事項－2 生徒による主体的な活動の推進

- ・生徒会担当から委員会や学級に働きかけ、自分たちで何ができるかということを常に意識し、活動させる。
- ・「ハイオアシス運動」「わがままゼロ運動」等への積極的な参加を促し、主体的に取り組むよう指導する。
- ・毎日、全校生徒で清掃に取り組み、学校の環境を良くする。

重点的な取組事項－3 教科の指導力の向上を図り、わかりやすく工夫された授業の実践

- ・外部講師を招いて、年間3回以上研究授業を実施し、教科についての研修を深める。
- ・教員の3割が都教育研修センターの研修等の外部研修に参加する。

(3) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性**重点的な取組事項－1 基礎・基本の定着と自主的な学習習慣の形成**

成果 ・質問教室、補充教室、定期考査時の学習については予定通りに実施できた。

- ・サタデースクールについては「開かれた学校作り協議会」のご尽力で32回実施できた。

課題・方向性 ・家庭学習の習慣のない生徒が多い。本年度の生徒アンケートで18%の生徒が全く家庭学習を行っていないことがわかった。生徒に対する指導とともに、家庭の理解協力が大切である。

- ・多方面から生徒の意識を変えるための取組を行う。

重点的な取組事項－2 生徒による主体的な活動の推進

成果 ・「ハイオアシス運動」「わがままゼロ運動」を実現するために、生徒自らが何をすべきかという視点で生徒総会の改革を行った。

課題・方向性 ・生徒アンケート「主体的に学校行事や生徒会活動、委員会活動に取り組む」についての肯定的な回答が59%にとどまった。委員会単位でもっと具体的な取組を推進する。

重点的な取組事項－3 教科の指導力の向上を図り、わかりやすく工夫された授業の実践

成果 ・研究授業として、区中研2回、綾瀬ブロック研修2教科、校内研修2回を実施することができた。

課題・方向性 ・区中研等区内の研修会には全員参加したが、都以上の外部研修への参加率25%で目標を若干下回った。校内研修については継続して取り組み、教育相談的手法を取り入れた指導についての研修を実施したい。

(4) 保護者や地域へのメッセージ

学校は子どもたちが楽しく学習し、安全に生活することが第一です。その中で、基礎的な学力を身に付けることや、友達や教職員と人間関係を築き、社会生活の基盤となる社会性や常識を身に付けることが大切だと考えます。

そのためには、集団の中でルールを守って生活することが大切です。学校でもきめ細かい指導を心がけていますが、学校外での生活については、地域の皆様や保護者の方の見守りが大切になります。学校・保護者・地域がそれぞれの役割を果たし協力しながらバランス良く健全育成を図っていきたく考えます。「当たり前のことが当たり前でできる学校」を目指して取り組んでいきます。ご理解ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

2. 平成22年度の重点的な取組事項

<達成度 ◎:十分に達成 ○:おおむね達成 △:達成せず ●:課題が残る>

重点的な取組事項－1 基礎基本の定着と自主的な学習習慣の形成

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自主的な学習習慣の育成を図る。	生徒アンケート項目「学習に対する取組」で肯定的な回答を70%以上にする。	「意欲的に学習に取り組んでいる」と答えた生徒は76%で目標は達成した。	左記の通りの結果で、数値としては達成することができた。家庭学習については課題が残る。	○

目標実現に向けた取組	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
家庭学習による予習復習の徹底	毎日の宿題提出を確認する。	宿題未提出者は放課後残しても指導し提出させる。	宿題提出について、左記の指導を行ったが、徹底というところまで至らなかった。	家庭学習については、51%の生徒が「あまり取り組めていない」現状がある。	△
学習機会の設定	定期考査時、11時間の学習時間を設定する。	年4回の定期考査時、毎日1校時に学習時間を設定し自学自習させる。	実施することができた。	テスト前の集中した学習時間となっている。	◎
補習授業・質問教室の実施	① 定期考査前を中心に、放課後質問教室を適宜実施する。 ② 夏季休業日に5日以上補習授業を行う。 ③ サタデースクールを30回以上実施する。	① 定期考査前に質問教室を実施し、基礎的な学習事項について確実に定着させる。 ② 夏季休業日に補習教室を実施する。 ③ 開かれた学校づくり協議会の協力の下、サタデースクールを実施する。	①②については完全に実施した。 ③についても32回実施し、目標を上回った。	補習・質問教室等については、よく実施できている。サタデースクールの実施日については、土曜授業との兼ね合いもあり見直しが必要(回数も含めて)	◎

重点的な取組事項－2 生徒による主体的な活動の推進

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
生徒に自分たちで学校を良くしようと意識を育てる。	生徒アンケート項目「教育活動に対する自主的な取組」で、肯定的な回答を70%以上にする。	「主体的に学校行事や生徒会活動、委員会活動に取り組む」については肯定的な回答59%であった。	ほとんどの生徒は学校を良くしようと意識をもって取り組んでいる。生徒会や委員会に所属しているかを問われたと理解したのかもしれない。	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度

生徒会活動・委員会活動・学級活動の活発化	生徒総会での委員会や学級の発言内容で判断する。	生徒会担当を中心に、委員会や学級に働きかけ、自分たちで何ができるかということを常に意識し、活動させる。	生徒総会において各委員会、学級、部活動からそれぞれ左記内容で発表させた。	要求・要望ではない生徒総会が実施できた。	◎
自発的・自治的な活動の推進	右記取組への積極的な参加、生徒の変容で判断する。	「ハイオアシス運動」「わがまませろ運動」等への積極的な参加を促し、主体的に取り組むよう指導する。	生徒会を中心に各委員会や学年・学級などと呼びかけをしていた。	普段から各委員会や学年・学級で具体的な取組を提案できるようにしたい。	○
自分たちの学校の環境美化を考え、清掃活動に取り組む。	清掃活動、校内美化に積極的に取り組んだ生徒の割合を80%以上にする。	毎日、全校生徒で清掃に取り組み、学校の環境を良くする。	「清掃活動、校内美化の取組」について肯定的な回答は71%であった。	生徒の意識面で、目標値を達成できなかったのは残念である。引き続き指導したい。	○

重点的な取組事項－3 教科の指導力の向上を図り、わかりやすく工夫された授業の実践

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
「生徒が分かる授業」「工夫した授業」を行う。	生徒アンケート項目「授業について」で、肯定的な回答を70%以上にする。	「分かりやすい授業」「工夫された授業」についての肯定的な回答は70%であった。	アンケートの結果としては目標を達成したが、さらに数値が上がるように取り組む。	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
「授業力の向上」を主題に校内研修会を実施する。	年間3回以上研究授業を実施する。	外部講師を招いて、研究授業を実施し、教科についての研修を深める。	綾瀬ブロック研修会、区中研の研究授業校内研修会、全6回の研究授業を実施した。	教科を中心とした研修の回数を多くし、授業改善に取り組むことができた。	◎
外部の研修に積極的に参加し、教科に対する研修を深める。	教員の3割が都教育研修センターの研修等の外部研修に参加する。	積極的に研修を紹介し受講を薦める。	区中研等区内の研修会には全員参加したが、都レベルの外部研修への参加率は25%にとどまった。	参加意欲を高めることはできたと思うが、体育館改修工事等の影響で、物理的に困難な状態があった。	○

3. 学校活動全般について

<p>・基礎学力の充実という点では、生徒たちの自主的な学習習慣の育成と、教員の授業力の向上という2点で取り組んできたが、アンケートの結果にも表れているように、地道な学習態度の育成や家庭での学習習慣の定着が課題である。</p> <p>・多くの生徒は元気よく挨拶ができ、礼儀正しく接することができる。しかし、一部に問題行動を繰り返したり、自分勝手な行動をとったりする生徒もいる。学校全体で「だめなものはだめ」ということをはっきり教え、ルールを守ろうとする規範意識を高めるような指導をすることが重要である。また、内面を育てていくための指導や教育相談の充実を図りたい。</p>
--